

## 平成 28 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

### 課題：局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究

#### 自動車 NO<sub>x</sub>・PM 法に係る対策地域における NO<sub>2</sub> 環境基準確保の評価手法に関する調査研究調査研究 株式会社数理計画

- ・自動車NO<sub>x</sub>・PM法の対策対象地域におけるNO<sub>2</sub>環境基準確保評価の為の一手法が構築された。
- ・この手法は、NO<sub>2</sub>のみならず、PM<sub>2.5</sub>の高濃度発生地点探索にも活用できる。
- ・手法の検証の為に、近年、急速に技術開発が進んでいる簡易測定法を用いた検討が望まれる。
- ・この手法を実際に用いる為のデモや研修等の実施も必要と考える。
- ・発表において、モデルや手法の説明が不十分であったため、全体的に良く理解できなかった。既に、1、2年度目に説明されているだろうが、今回は事後評価でもあるので、手法及び3年間全体の成果を説明する必要があったのではないか。
- ・発表を聞いただけでは、開発された手法が実際に使えるのかどうかの判断がつかない。例えば、以下のような疑問がある。
- ・周辺建物、道路構造、気象条件をどのように設定されたのかわからない。
- ・モデルの検証はどのようにされたのか。
- ・「大気環境レベル」の物理的意味がわからない。
- ・近傍道路以外の発生源の影響を全く考慮していない「大気環境レベル」を98%値と比較する意味があるのか疑問がある。
- ・研究の必要性は理解できるが、以下に記すように提案している手法は、実際に適用できる水準には達していないと考える。
- ・提案の手法の妥当性が、論理的にも実証的にも根拠が弱いため、提案の手法で高濃度の地域がどの程度の精度で抽出できるのかが判断できない。
- ・高濃度地として抽出する対象の広さが、実際の高濃度地域の広がりとの対応がなされていない。
- ・構造物のモデル化、幹線道路以外の道路のモデル化、幹線道路の交通量の変動の扱い等実際に利用するには検証が必要な点が残されている。
- ・可能であれば、実用化するための課題について具体的に明記することを希望する。
- ・この結果の有用性ととりわけ他地域への応用についてどう考えたらよいか提示してほしい。また対策には適用できない手法であるとしているが、検討してほしい。
- ・委託側の趣旨に沿って、計画どおりに調査・研究は進められた点からすればA評価である。成果からすれば、局地汚染の予測に用いるには必ずしも十分な精度を確保できなかったということになるかもしれないが、そもそも狙いどころが、あまりにも微細空間の大気汚染の精確な予測を求めすぎともいえる。予防事業の守備範囲を、自動車NO<sub>x</sub>・PM法に基づく行政目標の達成だけでなく、環境影響評価、リスクコミュニケーションなどに広げて捉え、こうした領域の調査・研究の成果をひろく活用することを検討していく必要があるように思える。